

## 東日本大震災 発災 15 年目を迎えるにあたっての

### 防災復興支援センター長メッセージ

2026 年 3 月 11 日に、東日本大震災津波の発生から 15 年を迎えます。マグニチュード 9.0 の巨大地震及びそれに伴う津波により、本県においては 4,675 人もの方々の尊い命が奪われ、今もなお、多くの方々が行方不明のままとなっています。東日本大震災津波により尊い命を失われた方々に、あらためて深い哀悼の意を表するとともに、被災されたすべてのみなさまに、心からお見舞い申し上げます。

この未曾有の災害を通じて、地震や津波をはじめとする自然災害は、場所を問わず誰の身にも起こり得るものであり、ひとたび発生すれば甚大な被害を及ぼすことを私たちは学びました。

近年では、熊本地震や能登半島地震、さらには豪雨災害など、全国各地で自然災害が頻発化・激甚化しています。岩手県でも、昨年、大船渡市で発生した山林火災は、自然災害がさまざまな形で地域の生活に大きな影響を及ぼすことや、「災害への備え」の重要性を、改めて考えさせられる出来事となりました。

岩手県立大学防災復興支援センターは、東日本大震災津波の教訓を未来につなぎ、次の災害に生かしていくことが今を生きる私たちの責務であると考え、災害から生き残る力を備えた人材育成や地域の防災力向上に向けた支援等に取り組んできました。引き続き、関係機関や地域の皆様と力を合わせ、災害に強い社会づくりに全力で取り組んでまいります。

2026 年 3 月 11 日

岩手県立大学 防災復興支援センター  
センター長・教授・博士（情報科学） 亀田 昌志